

テーマ展

いま知ってほしい栃木の外来生物

令和4年11月19日(土)～令和5年3月5日(日)

外来生物とは、もともとその地域にいなかったのに、人の活動によって他の地域から持ち込まれ、生息・生育するようになった生物のことです。外来生物にはたくさんの種類があり、地域の自然に溶け込んでいるように見えるものから、地域の自然や私たちの暮らしに大きな害を及ぼしているものまでさまざまです。

例えば、“アライグマ”は愛くるしい姿形で人気ですが、ひとたびケージから野に出してしまうと、地域の小動物を食べて、もともとその地域にいた生き物（在来生物）同士のつながりに悪影響を与えたり、農作物を食い荒らしたりします。最近話題の昆虫“クビアカツヤカミキリ”は、体長4cmほどの幼虫が、桃や桜の木の中を食べて枯らしてしまいます。キクのなかま“オオハンゴンソウ”は、きれいな黄色の花を咲かせますが、地下茎やたくさんのタネでまたたく間に増え、在来の植物が生える場所を奪ってしまいます。“ヒアリ”は毒針を持ち、人が刺されるとひどく痛みます。

これらの動植物のように、地域の生態系や農業、人の生命・身体に大きな被害を及ぼす生物は、外来生物法の規制対象となる生物であり、“特定外来生物”と呼ばれ、飼育・栽培や移動、輸入、売買、譲渡などが厳しく制限されています。

この展示では、特定外来生物を含め、栃木県の在来生物や人の暮らしに大きな害があるもの、今はまだどんな悪影響があるかははっきりわかってはいないけれど、ぜひ注目して欲しいものについて紹介します。

まずは、どんな外来生物がいて、どんな影響を与えるのかについて、実物標本や写真で解説します。動物では、アライグマ、ハクビ

シン、ガビチョウ、ウシガエル、クビアカツヤカミキリ、アメリカザリガニ、スクミリンゴガイなど。ヒアリやカミツキガメも取り上げます。植物では、オオハンゴンソウ、オオキンケイギク、アメリカオニアザミ、アレチウリ、コカナダモ、オオカワヂシャ、キショウブなど。現在、駆除中の水草“アマゾンチカガミ”も取り上げます。

さらに展示では、外来生物をこれ以上増やさないために、栃木県がどのような対策をとっているのか、どのような駆除活動が行われているのか、やってはいけないことは何かについても紹介します。

展示を通じて、外来生物との今後のつきあい方について考えていただけたら幸いです。

自然課長 星 直斗（ほし なおと）



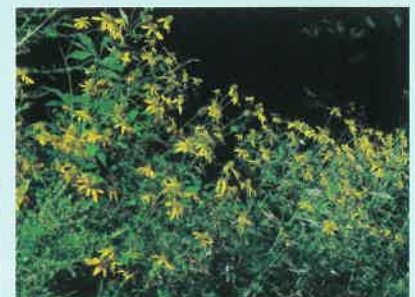
アマゾンチカガミ駆除活動



クビアカツヤカミキリの成虫



アライグマ



オオハンゴンソウ